

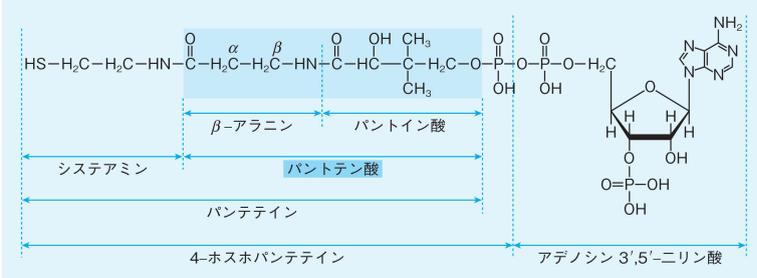
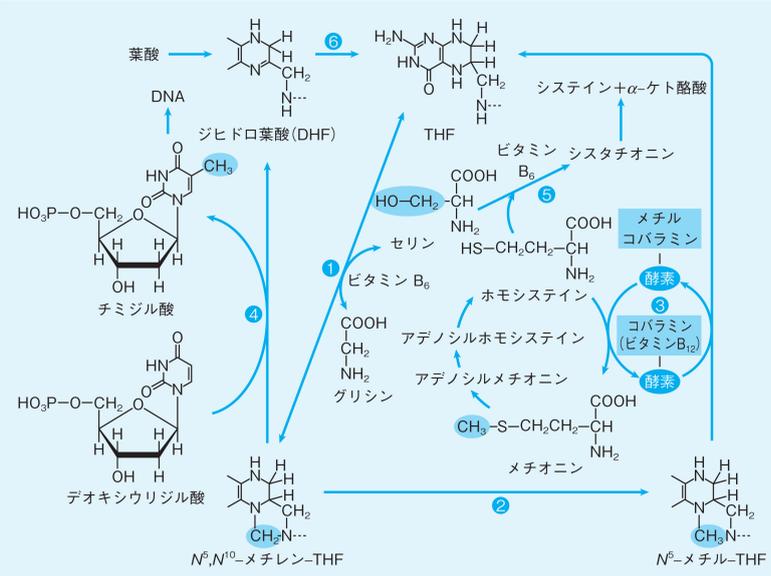
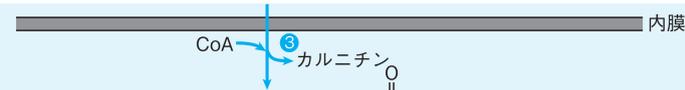
正 誤 表

「衛生薬学 基礎・予防・臨床」(第3版第1刷)

下記の箇所にて誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。また、一部情報の更新をいたします。

頁	行, 箇所	誤	正																																																												
74	表 2-7	(最下行に追加) 2019 (令和元)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) ウイルス 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)																																																												
95	コラム ●新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 上から 1～10 行目	(上から 10 行目「…発症する。」までを以下に差し替え) 2019 (令和元) 年 12 月に中国湖北省武漢市において新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) を原因とした肺炎が発生し、その後、わが国を含む世界各地で感染が拡大した。世界保健機関 (WHO) の報告によると全世界で感染者数は 1,700 万人以上となり、そのうち 68 万人以上が死亡したとされる (2020 年 8 月 2 日現在)。国内でも 1,000 人以上の死亡が報告されている。これまで、コロナウイルスには、一般的なかぜの症状を呈する 4 種類のウイルスと重症急性呼吸器症候群 (SARS) や中東呼吸器症候群 (MERS) のように重症化傾向を示す 2 種類の計 6 種類のウイルスが知られていた。新型コロナウイルス感染症は急性の呼吸器感染症であり、潜伏期間は 1～14 日とされ、その後、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状が出現する。一部の患者では呼吸困難等の肺炎を発症し、とくに高齢者や基礎疾患等を有する場合に、重症化しやすい。																																																													
98	下から 14 行目	13 疾病	14 疾病																																																												
99	表 2-20	(定期 A 類疾病予防接種の行を以下に差し替え)																																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象疾病</th> <th>ワクチン</th> <th>分類</th> <th>対象年齢(標準的な接種時期)</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ジフテリア 百日咳 破傷風 ポリオ(急性灰白髄炎)</td> <td>ジフテリア・百日咳・破傷風-ポリオ混合ワクチン(DPT-IPV)</td> <td>トキソイド(ジフテリア, 破傷風) 不活化ワクチン(百日咳, ポリオ)</td> <td>・生後 3 ヶ月～7 歳 6 ヶ月(3～8 週間隔で 3 回, その約 1 年後に 1 回)</td> <td>・4 回</td> </tr> <tr> <td>ジフテリア・破傷風混合ワクチン(DT)</td> <td>トキソイド</td> <td>・11～13 歳(11～12 歳)で 1 回</td> <td>・1 回</td> </tr> <tr> <td>麻しん 風しん</td> <td>麻しん・風しん混合ワクチン(MR)</td> <td>生ワクチン</td> <td>・生後 12～24 ヶ月未満で 1 回, その後 5 歳以上 7 歳未満であって小学校就学前 1 年間(4/1～3/31)に 1 回</td> <td>・2 回</td> </tr> <tr> <td>日本脳炎</td> <td>日本脳炎ワクチン</td> <td>不活化ワクチン</td> <td>・生後 6～90 月未満(3 歳のときに 2 回(1～4 週で 2 回), その約 1 年後に 1 回). さらに 9～13 歳未満(9～10 歳)で 1 回</td> <td>・4 回</td> </tr> <tr> <td>定期 A 類疾病予防接種</td> <td>結核</td> <td>BCG ワクチン</td> <td>生ワクチン</td> <td>・標準的には生後 5 ヶ月～8 ヶ月の間に接種</td> <td>・1 回</td> </tr> <tr> <td>Hib(ヒブ)感染症</td> <td>Hib(ヒブ)ワクチン</td> <td>不活化ワクチン</td> <td>・生後 2 月～5 歳未満(生後 2 月～7 月に開始し, 4～8 週間の間隔を置いて 3 回, その 7 ヶ月～13 ヶ月後に 1 回)</td> <td>・4 回</td> </tr> <tr> <td>肺炎球菌感染症(小児がかかるものに限る)</td> <td>小児用肺炎球菌ワクチン(沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン)</td> <td>不活化ワクチン</td> <td>・生後 2 月～5 歳未満(生後 2 月～7 月に開始し, 4 週間隔で 3 回, 生後 12～15 ヶ月未満に 4 回目)</td> <td>・4 回</td> </tr> <tr> <td>ヒトパピローマウイルス感染症</td> <td>HPV ワクチン</td> <td>不活化ワクチン</td> <td>・小学 6 年生～高校 1 年生相当の女子(中学 1 年生に初回接種を受け, 1～2 ヶ月の間隔をあけて 2 回目, 初回接種の 6 ヶ月後に 3 回目)</td> <td>・3 回</td> </tr> <tr> <td>水痘</td> <td>水痘ワクチン</td> <td>生ワクチン</td> <td>・1 歳～3 歳(生後 12 月～生後 15 月)に 1 回接種. その 6 ヶ月～12 ヶ月後にさらに 1 回接種)</td> <td>・2 回</td> </tr> <tr> <td>B 型肝炎(母子感染予防を除く)</td> <td>B 型肝炎ワクチン</td> <td>不活化ワクチン</td> <td>・生後 2 月～12 月未満(生後 2 月に開始し, 27 日の間隔を置いて 2 回目, 1 回目から 139 日の間隔を置いて 3 回目)</td> <td>・3 回</td> </tr> <tr> <td>ロタウイルス感染症</td> <td>ロタウイルスワクチン</td> <td>生ワクチン</td> <td>・生後 2 ヶ月～4 週間間隔</td> <td>・3 回 (5 価の場合) ・2 回 (1 価の場合)</td> </tr> </tbody> </table>		対象疾病	ワクチン	分類	対象年齢(標準的な接種時期)	回数	ジフテリア 百日咳 破傷風 ポリオ(急性灰白髄炎)	ジフテリア・百日咳・破傷風-ポリオ混合ワクチン(DPT-IPV)	トキソイド(ジフテリア, 破傷風) 不活化ワクチン(百日咳, ポリオ)	・生後 3 ヶ月～7 歳 6 ヶ月(3～8 週間隔で 3 回, その約 1 年後に 1 回)	・4 回	ジフテリア・破傷風混合ワクチン(DT)	トキソイド	・11～13 歳(11～12 歳)で 1 回	・1 回	麻しん 風しん	麻しん・風しん混合ワクチン(MR)	生ワクチン	・生後 12～24 ヶ月未満で 1 回, その後 5 歳以上 7 歳未満であって小学校就学前 1 年間(4/1～3/31)に 1 回	・2 回	日本脳炎	日本脳炎ワクチン	不活化ワクチン	・生後 6～90 月未満(3 歳のときに 2 回(1～4 週で 2 回), その約 1 年後に 1 回). さらに 9～13 歳未満(9～10 歳)で 1 回	・4 回	定期 A 類疾病予防接種	結核	BCG ワクチン	生ワクチン	・標準的には生後 5 ヶ月～8 ヶ月の間に接種	・1 回	Hib(ヒブ)感染症	Hib(ヒブ)ワクチン	不活化ワクチン	・生後 2 月～5 歳未満(生後 2 月～7 月に開始し, 4～8 週間の間隔を置いて 3 回, その 7 ヶ月～13 ヶ月後に 1 回)	・4 回	肺炎球菌感染症(小児がかかるものに限る)	小児用肺炎球菌ワクチン(沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン)	不活化ワクチン	・生後 2 月～5 歳未満(生後 2 月～7 月に開始し, 4 週間隔で 3 回, 生後 12～15 ヶ月未満に 4 回目)	・4 回	ヒトパピローマウイルス感染症	HPV ワクチン	不活化ワクチン	・小学 6 年生～高校 1 年生相当の女子(中学 1 年生に初回接種を受け, 1～2 ヶ月の間隔をあけて 2 回目, 初回接種の 6 ヶ月後に 3 回目)	・3 回	水痘	水痘ワクチン	生ワクチン	・1 歳～3 歳(生後 12 月～生後 15 月)に 1 回接種. その 6 ヶ月～12 ヶ月後にさらに 1 回接種)	・2 回	B 型肝炎(母子感染予防を除く)	B 型肝炎ワクチン	不活化ワクチン	・生後 2 月～12 月未満(生後 2 月に開始し, 27 日の間隔を置いて 2 回目, 1 回目から 139 日の間隔を置いて 3 回目)	・3 回	ロタウイルス感染症	ロタウイルスワクチン	生ワクチン	・生後 2 ヶ月～4 週間間隔	・3 回 (5 価の場合) ・2 回 (1 価の場合)
対象疾病	ワクチン	分類	対象年齢(標準的な接種時期)	回数																																																											
ジフテリア 百日咳 破傷風 ポリオ(急性灰白髄炎)	ジフテリア・百日咳・破傷風-ポリオ混合ワクチン(DPT-IPV)	トキソイド(ジフテリア, 破傷風) 不活化ワクチン(百日咳, ポリオ)	・生後 3 ヶ月～7 歳 6 ヶ月(3～8 週間隔で 3 回, その約 1 年後に 1 回)	・4 回																																																											
	ジフテリア・破傷風混合ワクチン(DT)	トキソイド	・11～13 歳(11～12 歳)で 1 回	・1 回																																																											
麻しん 風しん	麻しん・風しん混合ワクチン(MR)	生ワクチン	・生後 12～24 ヶ月未満で 1 回, その後 5 歳以上 7 歳未満であって小学校就学前 1 年間(4/1～3/31)に 1 回	・2 回																																																											
日本脳炎	日本脳炎ワクチン	不活化ワクチン	・生後 6～90 月未満(3 歳のときに 2 回(1～4 週で 2 回), その約 1 年後に 1 回). さらに 9～13 歳未満(9～10 歳)で 1 回	・4 回																																																											
定期 A 類疾病予防接種	結核	BCG ワクチン	生ワクチン	・標準的には生後 5 ヶ月～8 ヶ月の間に接種	・1 回																																																										
Hib(ヒブ)感染症	Hib(ヒブ)ワクチン	不活化ワクチン	・生後 2 月～5 歳未満(生後 2 月～7 月に開始し, 4～8 週間の間隔を置いて 3 回, その 7 ヶ月～13 ヶ月後に 1 回)	・4 回																																																											
肺炎球菌感染症(小児がかかるものに限る)	小児用肺炎球菌ワクチン(沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン)	不活化ワクチン	・生後 2 月～5 歳未満(生後 2 月～7 月に開始し, 4 週間隔で 3 回, 生後 12～15 ヶ月未満に 4 回目)	・4 回																																																											
ヒトパピローマウイルス感染症	HPV ワクチン	不活化ワクチン	・小学 6 年生～高校 1 年生相当の女子(中学 1 年生に初回接種を受け, 1～2 ヶ月の間隔をあけて 2 回目, 初回接種の 6 ヶ月後に 3 回目)	・3 回																																																											
水痘	水痘ワクチン	生ワクチン	・1 歳～3 歳(生後 12 月～生後 15 月)に 1 回接種. その 6 ヶ月～12 ヶ月後にさらに 1 回接種)	・2 回																																																											
B 型肝炎(母子感染予防を除く)	B 型肝炎ワクチン	不活化ワクチン	・生後 2 月～12 月未満(生後 2 月に開始し, 27 日の間隔を置いて 2 回目, 1 回目から 139 日の間隔を置いて 3 回目)	・3 回																																																											
ロタウイルス感染症	ロタウイルスワクチン	生ワクチン	・生後 2 ヶ月～4 週間間隔	・3 回 (5 価の場合) ・2 回 (1 価の場合)																																																											

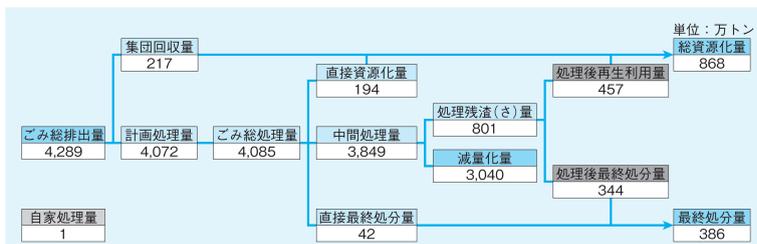
頁	行, 箇所	誤	正
121	図 4-4	<p>(以下に差し替え)</p> <p>◆図 4-4 ホモシスチン尿症</p>	
167	表 1-10 アルギニンの略号	(A)	(R)
174	上から 9 行目	コレステロール合成を経て	コレステロールの直前の前駆体として
178	上から 12 行目	緑茶	茶葉
182	図 1-43	<p>(以下に差し替え) (活性アルデヒドに+追加, FADHをFADH<sub>2</sub>に訂正)</p>	
187	図 1-51	<p>(以下に差し替え)</p>	
187	図 1-52	<p>(以下に差し替え)</p>	

頁	行, 箇所	誤	正
188	図 1-54	(以下に差し替え)	
191	上から 7 ~ 8 行目	デオキシウリジン酸	デオキシウリジル酸
192	図 1-60	<p>(以下に差し替え) (チミジル酸・デオキシウリジル酸訂正, ⑥追加)</p>  <p>◆ 図 1-60 葉酸とヌクレオチドの合成, ビタミン B<sub>12</sub> の相互関係 (図 1-49 参照)  ① セリンヒドロキシメチル転移酵素, ② メチレン THF 還元酵素, ③ メチオニン合成酵素, ④ チミジル酸合成酵素,  ⑤ シスタチオニンβ合成酵素, THF: テトラヒドロ葉酸, ⑥ ジヒドロ葉酸レダクターゼ</p>	
209	上から 5 行目	炭酸脱水素酵素	炭酸脱水酵素
235	図 1-90	<p>(⑤カルニチンの部分を以下に差し替え) (CoA の追加)</p> 	

頁	行, 箇所	誤	正
238	図 1-93	<p>(以下に差し替え)</p>	
239	上から 6～9 行目	さらにコレステロールが生成する。 コレステロールからはさらに、ステロイドホルモン、胆汁酸やビタミン D が合成される (p.173 「ビタミン D」の項参照)。	さらにビタミン D 合成に利用される 7-デヒドロコレステロールを経て、コレステロールが生成する (p.173 「ビタミン D」の項参照)。 コレステロールからはさらに、ステロイドホルモンや胆汁酸が合成される。
254	下から 11 行目	1 g	1 kg
261	上から 3～4 行目	高齢者の年齢区分を 50 歳～64 歳, 65 歳～74 歳, 75 歳以上に分けた	高齢者の区分を 65 歳～74 歳, 75 歳以上とするために, 年齢区分を 50 歳～64 歳, 65 歳～74 歳, 75 歳以上の 3 つに分けた
268	下から 1 行目	男性 8.0g/ 日未満, 女性 7.0g/ 日未満	男性 7.5g/ 日未満, 女性 6.5g/ 日未満
270	上から 4 行目	神経管閉塞障害発症リスク	神経管閉鎖障害発症リスク
275	表 1-41 葉酸: 欠乏症	神経管閉塞障害	神経管閉鎖障害
281	上から 19,20,24 行目	神経管閉塞	神経管閉鎖
324	図 2-17	<p>(以下に差し替え)</p> <p>◆ 図 2-17 アクリルアミドの生成過程</p>	
335	図 2-25	2. キサンチン系着色料	2. キサンテン系着色料

頁	行, 箇所	誤	正
362	図 2-44	(以下に差し替え)	
363	上から 8～9 行目	・地方厚生局(全国 7 カ所)において「総合衛生管理製造過程」の食品製造・加工にかかわる承認・指導業務を行う。	(削除)
373	上から 16 行目	と呼ぶ。	と呼ぶ。さらに、近年の研究により本菌の病原因子として 3 型分泌装置 (T3SS) の存在が指摘されている。
378	上から 2 行目	引き起こす。	引き起こす。一方で、コレラ毒素産生コレラ菌と同様に、コレラ毒素非産生菌でもコレラ様症状(下痢)を引き起こす事例が報告されている。
389	下から 14～13 行目	後者は中枢神経系において神経伝達物質である $\gamma$ -アミノ酪酸 gamma-amino butyric acid (GABA) の受容体に結合して抑制作用を示し、軽い幻覚を	後者はそれ自身が中枢神経系においてグルタミン酸受容体に結合するとともに、その分解物であるムッシモールが $\gamma$ -アミノ酪酸 gamma-amino butyric acid (GABA) 受容体に結合して興奮作用と抑制作用を示し、幻覚を
390	表 3-6 イボテン酸の中毒症状	神経伝達物質 GABA と拮抗して中枢神経系を乱し、幻覚を起こす	イボテン酸とその分解物による興奮と抑制が同時に起こり、幻覚を起こす
462	図 1-35	$FCH_3CO_2H$ モノフルオロ酢酸	$FCH_2CO_2H$ モノフルオロ酢酸
466	図 1-40	(ビスフェノール A の構造式を以下に差し替え)	
537	上から 8 行目	国際放射線防御委員会	国際放射線防護委員会

頁	行, 箇所	誤	正
636	上から 5 行目	$(a - b)$	$(b - a)$
637	上から 18 行目	$(a - b)$	$(b - a)$
661	表 5-1 タイトル	2018 年 4 月 1 日一部改正	2018 年一部改正, 2021 年一部改正
	表 5-1 揮発性有機化合物 キシレンの基準	$870 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること	$200 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること
675	図 6-3	(以下に差し替え) (直接資源化量の上に罫線を追加)	



(2021.8 株式会社 南江堂)